

～これは きみからきみへの てがみだよ。 さあ、あけて～

うちに かえりたいのに たどりつけない
ともだちに はなしかけても きづいてもらえない
やってもやっても おわらない しゅくだい
つぎのひが しんぱいなきみは こんなゆめを みているのかもしれない
でも おひさまのひかりで そのゆめは とけていく
そして そこで であうものは…
『ねむるまち』は、だれもが じんせいであじわう 6つのきもちをえがいた
6つのおはなしです

日本・スウェーデン合同企画

平成25年度 児童福祉文化賞受賞

劇団うりんこ

ねむるまち

脚本・演出＝バート・フーグランド 翻訳＝上倉あゆ子 通訳＝上倉あゆ子・木村御代 音楽＝トーマス・リンダール 美術＝大島広子 衣装＝ごとうゆうこ
照明＝機暮こずえ・四方あさお 演出助手＝内田成信 舞台監督＝西尾栄儀 イラスト＝大島広子 デザイン＝柳川昇義 制作＝後藤武弥

2014年

8月7日(木曜日) 15:00 / 18:00

●客席定員は100人です。●受付は開演の30分前、開場は15分前

[会場] 穂の国とよはし芸術劇場 創造活動室A

[料金] 前売 2,500円 / 当日 3,000円 (大人子ども同一料金・4才からご入場いただけます)

公演のお問合せ。チケットのご予約は

劇団うりんこ

☎ 052-772-1882

FAX 052-771-7868

<http://www.urinko.jp/>

豊橋演劇鑑賞会

豊橋おやこ劇場協議会

☎ 0532-54-1079

☎ 0532-37-6301



おはなしの世界へようこそ

このおはなしは、スウェーデンの演出家バート・フーグランドさんとうりんこの役者たちがたくさんの時間を重ねてできあがりしました。スウェーデンの演劇は、ひとりひとりと目をあわせて、やさしく語りかけることから始まります。そして、子どもたちに空想や想像の翼をあたえ、人生をあるがままに伝えてくれます。このおはなしは、子どものための演劇の魅力にあふれています。みなさんは、遠いスウェーデンのおはなしではなく、自分のことだと思うでしょう。さあ、いっしょに、おはなしの世界へいきましょう。



西尾栄儀



内田成信



にいみひでお



下出祐子



柴田早苗



後藤優子

2014年夏 再々演にあたって

2007年、スウェーデンの国立劇場で活躍していた演出家・バートさんとの出会いは「子どもと演劇の出会い」を予感させるものでした。そして、それから3年後に生まれたのが、劇団うりんこの「ねむるまち」です。

この作品は教育・福祉先進国のスウェーデンから児童演劇を学ぶため、バートさんを招いて、2008年8月から3年間、のべ21日間のワークショップを重ね、2010年の夏に制作されました。うりんこ劇場での13公演は話題を呼び、2012年には首都圏で26公演のツアーを実施。その年の「児童福祉文化賞」を受賞しました。そしてこの度、「ねむるまち」は韓国・ソウルの国際児童演劇フェスティバルへの招待を得て、2014年夏に再々演の機会を得ました。今回、豊橋の演劇ファンの皆様にもぜひご覧いただきたいと思い、穂の国とよはし芸術劇場での公演を企画致しました。どうぞご家族やご友人と一緒にご来場いただきますようご案内申し上げます。

劇団うりんこ

静かだが濃密な空気をつくった劇団うりんこの「ねむるまち」

児童劇は普通、明るく！元気に！楽しく！と作られる。このく！の強さによって子供たちの心をつかもうとするからだ。けれども今回、スウェーデンのバート・フーグランドが作・演出した劇団うりんこの「ねむるまち」は、それとは違ってひそやかな気配の静かな児童劇だった。

その気配の演出は開演前から始まっていた。観客が心を潜ませて劇場に入り、そっと席に着くように俳優たちが導いていく。そして言葉の説明ではなく、声や楽器のささやきで風や雨、夜の静けさを実感させ、次第に物語に引き込んでいく。つまり静かだが濃密な空気を繊細につくり、劇場全体に染み入らせるのだ。

そして物語もユニークだった。描かれたのは、ある町の夜の物語。町の家々の模型を一つ一つ取り上げ、そこ

に住む人がどんな夢を見ているのかを語っていく。散歩の帰りに道に迷っているおじいさん、買い物依存症の女、クッキー作りの失敗におびえるおばあさん等々。みんな何かしら心の不安がのぞいたような悪夢を見ている。

もちろん最後は朝になり、悪夢は終わる。その人たちが町で出会い、交流し合うことで互いに元気を取り戻す。孤立するのではなく、交流し合おうと呼びかける内容だ。けれどもそれを伝えるのに、孤立と孤独をきちんと見せるのだ。子供たちも静かにそれを受け止めていた。それらを語る語り口にも、繊細な中にも芝居の面白さが詰め込まれていたからだ。この児童劇には子供の感受性への信頼があった。(8月29日、名古屋市名東区のうりんこ劇場で観劇)

〔中日新聞 2010年 9月18日(安住恭子の舞台プリズム)〕

